

投資に役立つ日経新紙面!

今年1月からNISA(少額投資非課税制度)がスタートし、資産運用に関心が高まっています。投資で「勝つ」ためには情報収集が肝心です。日本経済新聞は紙面をリニューアルし、初心者にもわかりやすい投資情報を強化しました。

初心者にやさしい投資情報を拡充

「スクランブル」 『マーケット総合』面

火～土曜掲載

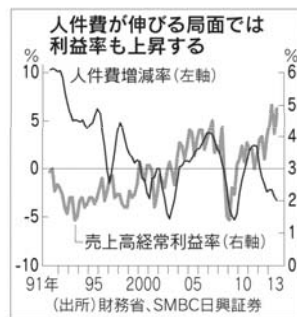
東京株式市場の日々の動きを深く分析するコラム「スクランブル」がスタートしました。ベテラン記者が丹念な取材をもとに相場の新たな潮流を読み解きます。

『マネー&インベストメント(M&I)』面

水曜・土曜掲載

従来の水曜日に加えて土曜日にも掲載します。「あなたと家族のお金、はじめの一步」をコンセプトに、わかりやすい資産形成の情報をたっぷり取り上げます。

2014年5月15日(木) 日本経済新聞朝刊



実上げは株価にも追い風
(買上げ率上位10社の株価。単位は%、▲は下落)

社名	4月以降の騰落率
ライフコーポレーション	2.9
レオン自動車	▲6.9
レオンオート	▲5.0
セントラル硝子	1.8
積水ハウス	1.0
クボタ	3.9
トヨタ自動車	▲1.6
いすゞ自動車	1.2
ファミリーマート	▲6.1
東洋電機	3.1
日経平均株価	▲2.8

スクランブル

大幅高の翌日だった14日の日経平均株価は、小幅に反落。米国ではダウ工業株30種平均が最高値を更新するなど世界的な株高基調の波に、日本株はなかなか乗れない。企業業績にいまひとつ信頼が持てない投資家は、上値を追うような「買いに二の足を踏んで」いる。有効求人倍率は16カ月連続で改善している。人手不足が賃金上昇につながる。構図は鮮明になってきた。

その一因は人件費の増加不足が賃金上昇につながる。賃上げは株価にも追い風(買上げ率上位10社の株価。単位は%、▲は下落)

経団連によると大手企業の2014年の賃上げ率は2・39%と16年ぶりの高水準だ。毎月勤労統計調査では、残業代を含む給与総額が上昇に転じてきた。

人件費の増加そのものは、企業収益を押し下げる。だが、法人企業統計をもとに振り返ってみると人件費の伸び率が上がる局面では、企業全体の利益率はむしろ改善するケースが多い。

人件費増は悪者か

日本株への買いが続かない。投資家が強気に傾かないのは、企業業績を巡る不透明感がくすぶるためだ。前期の大幅増益に対し、今期予想は増益率が鈍っている。消費増税の影響への懸念に加え、人手不足による人件費増が収益圧迫の一因とみられている。しかし賃上げなどの人件費増は、企業業績にとって本当に悪者なのか。

賃上げ、企業の自信の表れ

なぜか。SMB C日興証券の坪正嗣・株式ストラテジストは「賃金上昇の局面では景気が売りの局面も伸び、かえって収益性が高まる」と指摘。これは「賃上げに踏み切る企業は、それが売上高を伸ばせる自信がある」とみる。

例えは旭化成。9日の14年3月期決算発表時に、ベア実施で今期は人件費が十数億円規模で増えるという「海外中心に投資の成果が取り込め、人件費が増えても今期は経常最高益を更新できる」と胸を張った。賃金は「昇は企業側の自信の表れ」といえる。株価は決算発表前から6%上昇している。

日本経済新聞が実施した14年の賃金動向調査(4月14日時点)で賃上げ率上位10社の4月以降の騰落率をみると、1位のライフコーポレーションは2・9%上昇するなど7社の株価は上昇している。日経平均の下落より小幅にとどまる。人手不足が収益の重荷になる。丸山修一

なってきた大手ゼネコに。なせか。SMB C日興証券の坪正嗣・株式ストラテジストは「賃金上昇の局面では景気が売りの局面も伸び、かえって収益性が高まる」と指摘。これは「賃上げに踏み切る企業は、それが売上高を伸ばせる自信がある」とみる。

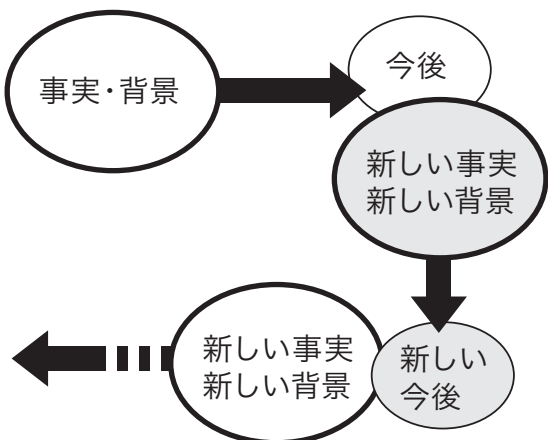
例えは旭化成。9日の14年3月期決算発表時に、ベア実施で今期は人件費が十数億円規模で増えるという「海外中心に投資の成果が取り込め、人件費が増えても今期は経常最高益を更新できる」と胸を張った。賃金は「昇は企業側の自信の表れ」といえる。株価は決算発表前から6%上昇している。

日本経済新聞が実施した14年の賃金動向調査(4月14日時点)で賃上げ率上位10社の4月以降の騰落率をみると、1位のライフコーポレーションは2・9%上昇するなど7社の株価は上昇している。日経平均の下落より小幅にとどまる。人手不足が収益の重荷になる。丸山修一

日経の読み方

紙上講座

第1回目の読み方講座では、新聞の特徴である「逆三角形」を生かした「見出しと前文読み」で効率よく新聞を読むことをお伝えしました。今回は、新聞の記事から何が分かるのかを考えてみましょう。



第2回

ニュースは連続ドラマ

日本経済新聞社では、大学生や日経を読み始めた方のために、「日経の読み方」講座を各地で開催しています。その講座の一部を、ご紹介いたします。

背景と今後を意識すればニュースはつながる

新聞記事で分かること、それは「事実・背景・今後」です。「こんなことがあった」という事実、「なぜ、こんなことが起こったのか」という背景、そして「これからどうなる」という後を、新聞記事から読み取ることができます。記事に書かれた事実だけを覚えるのではなく、その事実の背景やその後の展開を考えると大切です。

例えば、企業のM&A(合併・買収)のニュースがあったとします。そのニュースの前にはそれらの企業の業績に関する記事があったはずで、そしてその後、M&Aによって起こった変化が記事になります。

ニュースは永遠に終わらないドラマ

物事が起こるには、それが起こる背景があります。しかし、それが起こったことで、背景が変化し、次の新しい物事が起こるのです。まるで、連続ドラマのようにニュースはつながっていきます。ただし、犯人が簡単に分かるような推理ドラマではありませんが、この先何が起こるのかを予測し、あらかじめどのような行動をとるのかを考えておくことは重要です。新聞を読むことは、事実とその背景を踏まえて、後を予測することなのです。

続きは次号で!